はしがき

今年度もまた，本誌『古典古代学』(第 13 号) を公刊できることを喜びたい．

本号には 3 本の論考を収める．コロナ禍のため，学術・教育界にも各種の混乱が及んだ 1 年であったが，本誌をペースメーカーとして，変わらぬ研究スタイルを貫く執筆者たちに，あらためて敬意と謝意を表したい．

第 1 論文の執筆者石田隆太氏は，本誌第 8 号から連続しての投稿である．トマス・アクィナスの未邦訳作品に関して，本誌が邦訳の初出誌に選ばれ，氏の訳文を通じてわれわれが原著作に触れられることに，大きな喜びを見出したい．

第 2 論文の執筆者菊地英里香氏は，創刊号から執筆を継続している悪魔魔女学者である．『魔女たちへの鉄槌』に始まる悪魔学の系譜について，氏の力量は既に実証済みであるが，本号ではカロワ・ド・マルルの妖術師裁判が扱われる．

ささやかな研究誌であるが，2020 年に喜寿を迎えられた筑波大学名誉教授山内芳文先生に本号を謹呈させていただく．山内先生は，筑波大学の前身である東京教育大学と同大学院にてドイツ教育史を専攻され，1972 年より山梨県立女子短期大学，75 年より金沢大学に勤務された後，86 年 10 月本学に着任され，92 年 9 月から 2007 年 3 月まで教育学系と同大学院人間総合科学研究科の教授を務められた．この間，01 年 4 月から 03 年 3 月まで附属図書館長を併任され，われわれは今日まで，附属図書館の充実した設備と蔵書に多くを負っている．先生は本学をご退任後，07 年 4 月から 10 年 3 月まで大学評価学位授与機構の教授，10 年 4 月から 13 年 3 月まで聖徳大学の教授を勤められ (同名誉教授)，13 年 4 月から 20 年 3 月まで，東日本国際大学に特任教授として勤務された．

山内先生の一層のご健勝をお祈り申し上げるとともに，引き続き，読者諸賢による本誌への心ある支援をお願いする次第である．

2021 年 3 月 25 日

筑波大学人文社会系　教授　　秋山　学